

胃ろう・要介護5から奇跡の復活

日時

2019年
9月29日 日 13:00-16:00 (開場12:00)

会場:鶴見大学会館メインホール(地下1階)

参加費 : 無料・申し込み不要

対象 : 医療や介護に携わる方、一般の方 どなたでもご参加下さい

定員 : 先着250名 (多数の場合はお断りさせていただくこともございます)

開会の辞 会長 赤羽重樹
趣旨説明 : 佐藤 陽 (朝日新聞記者)
司会: 栗原美穂子

第1部
基調講演 13:10~14:05

「胃ろう・要介護5から奇跡の復活」

講師: 松本 孝彦

休憩 & 後援企業より商品紹介 14:05~14:25

第2部
シンポジウム 14:25~16:00

司会: 佐藤 陽

「口から食べる」ために地域でできること!

パネリスト

「鶴見区の救急医療の現状と適切な救急受診について」

各15分

山崎 元靖 (済生会横浜市東部病院副院長・救命救急センター長)

「出会いと 繋ぎ そして寄り添い」

栗原 美穂子 (よりそい訪問看護ステーション所長)

「思いをひとつに! 最後まで口から食べるための地域での繋がり」

飯田 良平 (鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座 非常勤講師)

「寄り添ってくれる医療資源と出会うためには」

赤羽 重樹 (西神奈川ヘルスケアクリニック院長 横浜市医師会常任理事)

パネルディスカッション 15:25~15:45

質疑応答 15:45~16:00

閉会の辞: 飯田 良平

胃ろう・要介護5から奇跡の復活

松本 孝彦



76歳で重度の肺炎から呼吸不全に至り、人工呼吸器と胃ろうをつけた。寝たきりの要介護5となったが、さまざまな努力や地域のサービスを受け、4年を経て要支援に至る。闘病の経緯や回復に至ったポイントなどを、ご本人に語っていただきます。

佐藤 陽 (朝日新聞be編集部記者)



1967年生まれ。91年朝日新聞に入社。横浜総局にいた2013～16年、超高齢化の現状と対策を取材した連載「迫る2025ショック」を企画・執筆し、約160本の記事にまとめた。16年に「日本で老いて死ぬということ」(朝日新聞出版)として出版された。本日登壇する松本さんや関わった医療関係者を取材した。

山崎 元靖 (済生会横浜市東部病院副院長・救命救急センター長)



救急科専門医、外科専門医。慶應義塾大学病院、済生会神奈川県病院等を経て、2008年より済生会横浜市東部病院救命救急センターに勤務。重症外傷患者の救命や災害医療を専門とする一方、地域連携や高齢者救急、人生の最終段階における医療に関してもフィールドを広げて活動している。

栗原 美穂子 (K&Yヘルスケア(株)よりそい看護ケアセンター代表)



1996年より訪問看護の道に携わり、ケアマネジャー、認定看護管理者の資格を取得し、現場でケア提供をしながら各地で講演活動も行っている。2014年から一般社団法人横浜在宅看護協議会の会長に就任し、2016年K&Yヘルスケア株式会社、よりそい看護ケアセンターを設立し訪問看護事業・居宅介護支援事業など地域に根付いた活動を行っている。

飯田 良平 (鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座 非常勤講師)



鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座助教、同附属病院摂食嚥下リハビリテーション外来主任を経て、現在フリーランスとして活動中。松本さんの食べる機能の評価とリハビリについて助言を行った経緯を踏まえて、地域の医科や看護、多職種との、最期まで口から食べるための連携について解説する。

赤羽 重樹 (西神奈川ヘルスケアクリニック院長 横浜市医師会常任理事)



2007年まで川崎市の急性期病院で勤務。同年に横浜市神奈川区で西神奈川ヘルスケアクリニック開設。院長として内科外来と訪問診療を担当している。2017年から横浜市医師会常任理事として、地域における医療・介護・福祉・行政の橋渡し役を担っており、その観点から地域の医療資源について解説する。